

平成25年度
岡山市市民協働推進モデル事業
施設児童退所支援のための実態調査
調査報告書

平成26年3月

特定非営利活動法人杜の家



目次

はじめに	1
第1章 調査の概要	2
1. 本調査の目的	
2. 調査対象者	
3. 調査方法	
第2章 アンケート調査	
1. 調査実施概要	3
2. 調査結果	4
第3章 インタビュー調査	
1. 調査実施概要	18
2. 調査結果	19
第4章 まとめ	24
1. 調査の所感	
2. 施設で必要とされている教育について	
3. 施設では難しく、今後地域で必要とされている支援	
付 属 アンケート調査票	26



はじめに

児童養護施設等で生活している児童は、一般の世帯で生活している児童に比べて、早い時期に自立した生活を始めることが求められる傾向にあります。近年、その生活基盤は脆弱で、金銭的にも精神的にも大変厳しいものであるという報告がなされると同時に、各地で施設退所児者に対する支援も始められています。しかし、岡山市においては、これまで退所者に対しての事態調査は実施されておらず、施設退所後の生活実態や、退所児者に必要とされている支援内容については、明らかにされていませんでした。よって、児童養護施設等にとっても自立支援の成果を知る機会に乏しい現状があります。

こうした背景を受け、「施設退所児童支援のための実態調査」を NPO 法人杜の家と岡山市岡山っ子育成局こども企画総務課、および岡山市こども総合相談所が協働で実施することにしました。各児童養護施設等にも協力を得て、過去おおよそ 10 年間のうちに 15 歳以上で退所した児者にアンケート用紙を配布して回答を求めるといったものです。この調査を通じて、施設を退所した児者の生活実態を明らかにするとともに、これから我々が行わなければならない支援を把握することが目的です。この調査結果を踏まえ、今後岡山市内の児童福祉機関や児童養護施設等の福祉施設、および就労支援や障がい者支援事業者等とともに連携し、よりよい支援体制を築いて行きたいと考えています。

今回、このアンケートにご回答いただきました皆様に心からの感謝を申し上げます。また、この調査にご協力いただいた各児童養護施設等の皆様や、多くのことをご教示下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

1. 本調査の目的

施設を退所した児者の現在の生活状況を明らかにするとともに、生活上での「困ったこと」を分析し、施設内での自立教育することが可能なことと、施設内だけでは教育をすることが困難なこと、また教育が足りている事項と足りていない事項を明確にして、今後支援者が適切な支援を行うための基礎資料とすることを目的としました。

2. 調査対象者

岡山市内の児童養護施設を15歳以上で退所し、概ね10年内の者を対象としました。

3. 調査手法

上記対象者に対するアンケートおよびヒアリング調査を実施しました。

アンケート調査の配布については、ご協力いただいた児童養護施設等から個別にアンケート用紙の配布を行い、回収しました。

今回の調査では下記の施設にご協力戴きました。

また本文中の「児童養護施設等」とは、下記の施設のことを指します（敬称略）

児童養護施設

- ・岡山市善隣館
- ・社会福祉法人備作恵済会若松園
- ・社会福祉法人南野育成園
- ・社会福祉法人新天地育児院

情緒障害児短期治療施設

- ・社会福祉法人旭川荘津島児童学院

児童自立支援施設

- ・県立成徳学校

自立援助ホーム

- ・NPO 法人シェルターモモ

ファミリーホーム

- ・公益財団法人 YMCA せとうち おおもと荘

第2章 アンケート調査

1. 調査実施概要

■ 調査期間

平成26年1月6日～平成26年2月10日

■ 調査対象と配布・回収状況

調査対象	岡山市の児童養護施設等を15歳以上で、概ね過去10年以内に退所した者
配布数	185件
有効回収数	50件
有効回収率	27%

■ 調査方法

各児童養護施設等を通じて、退所児者宅へ郵送等による配布を行い、回答後に郵送等による回収を行いました。

電話等により連絡が取れる退所児者については個別で連絡し、訪問等による回収を実施しました。

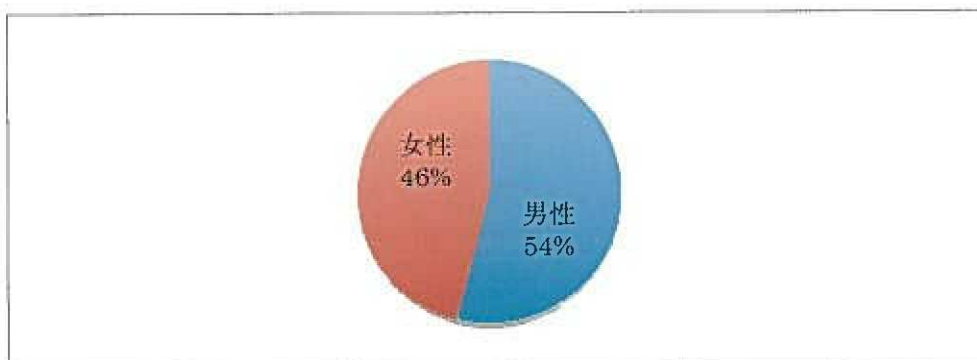
2. 調査結果

(1) 回答者の状況

回答者の性別は「男」が54%、「女」が46%となっています。

また、大まかなデータは下記の表のとおりとなりました。

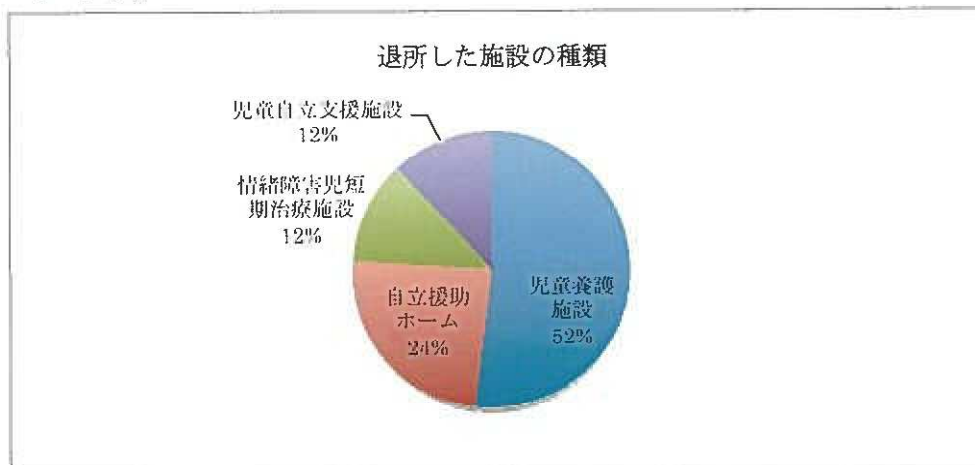
今回の調査で18歳以下の方が20%いますが、これらの方々についても、家庭復帰をしていたり、一人暮らしで働いていたり、自立援助ホームで暮らしているなど、様々な生活形態がありました。



平均年齢	21.4歳
退所後の平均年数	4.6歳
結婚している割合	8%
18歳以下の割合	20%

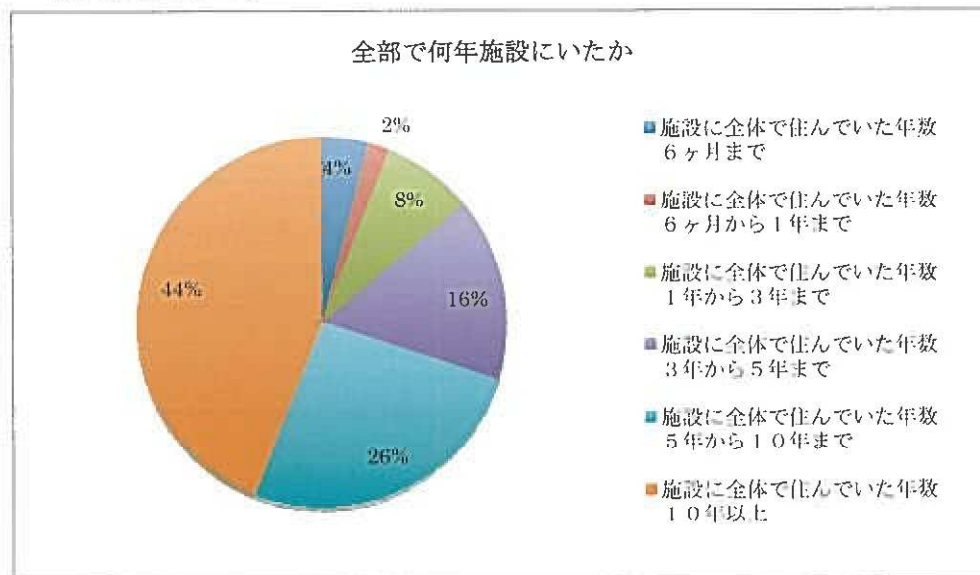
(2) 最後に入所していた施設

回答者が最後に入所していた施設はおおよそ半数が「児童養護施設」(52%)となっています。次に「自立援助ホーム」が24%となっています。今回の調査では自立支援ホームの協力を得ていることから、自立支援ホームの利用率が高い割合になっています。



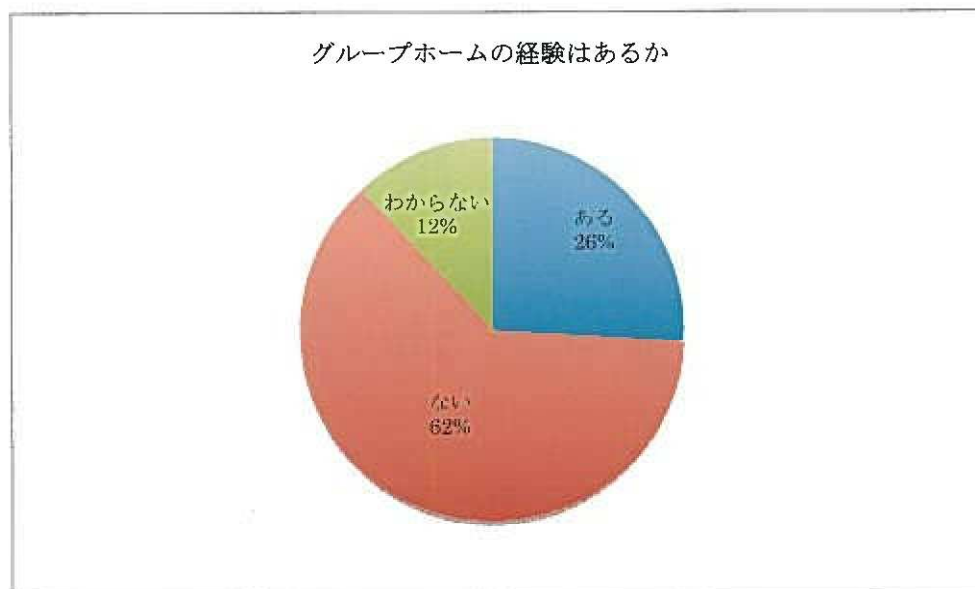
(3) 入所期間

入所期間は「10年以上」が44%と最も多く、次に「5年から10年まで」が26%と続いています。岡山市では施設退所後に自立生活を送る人の、施設在所要期間は長い傾向にあります。



(4) グループホーム（小規模ユニットケア）の経験

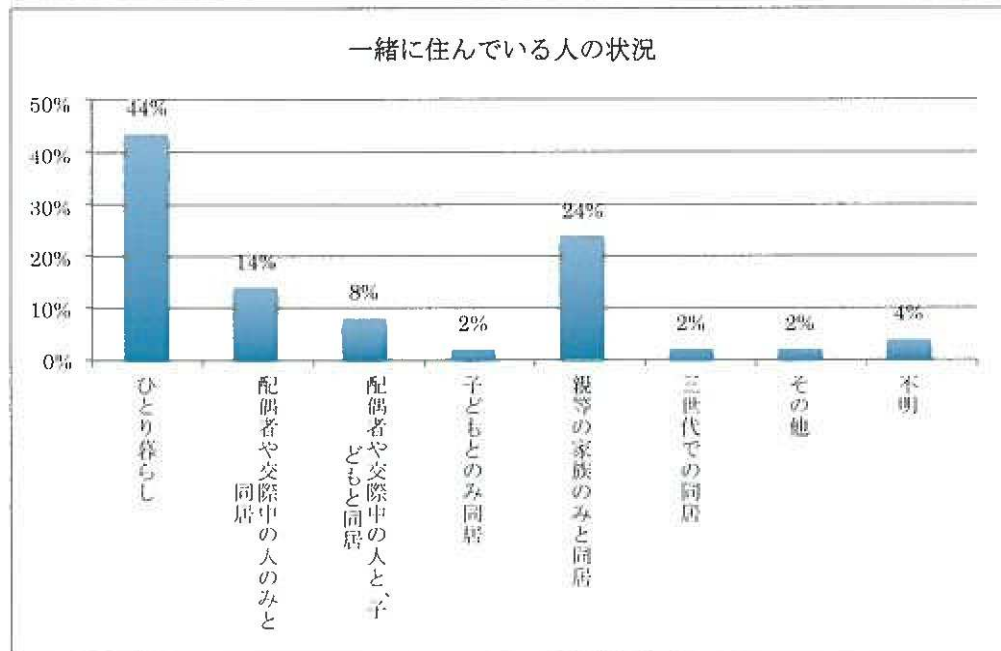
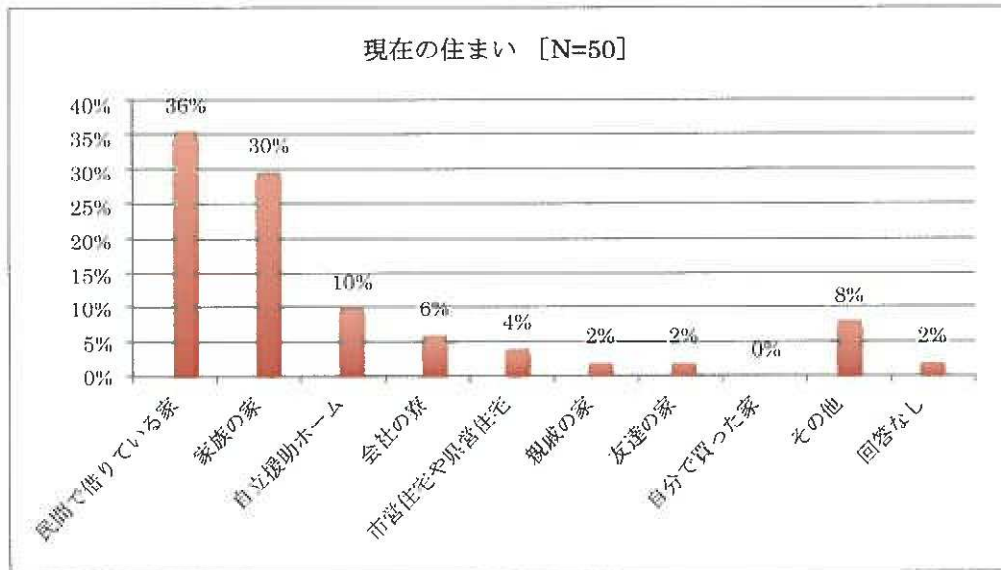
グループホームの経験があると答えた回答者は26%でした。今回の調査では「施設退所後10年以内の人」を対象としていますが、まだグループホームの利用は少ないようです。



(5) 現在の住まいと一緒に暮らしている人の状況

現在の住まいは36%の人が「民間で借りている家」に住んでおり、次いで30%の人が「家族の家」で暮らしています。

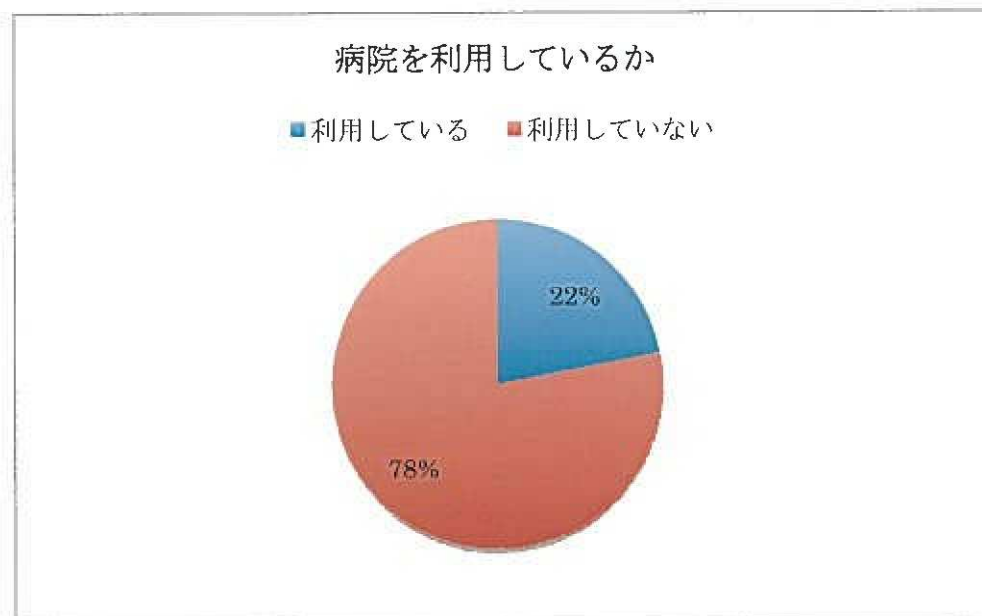
世帯については、親と暮らしているのは「親等の家族のみと同居」と「三世代での同居」の合計26%です。おおよそ半分の44%の人がひとり暮らしをしており、一人で生活基盤を維持しないといけない人が多いことがうかがえます。



(6) 病院の利用について

病院の利用については、22%の人が現在何らかの医療機関を利用していると答えました。その内訳ですが、産婦人科が3名(6%)、精神科・児童精神科が6名(12%)、その他が2名でした。

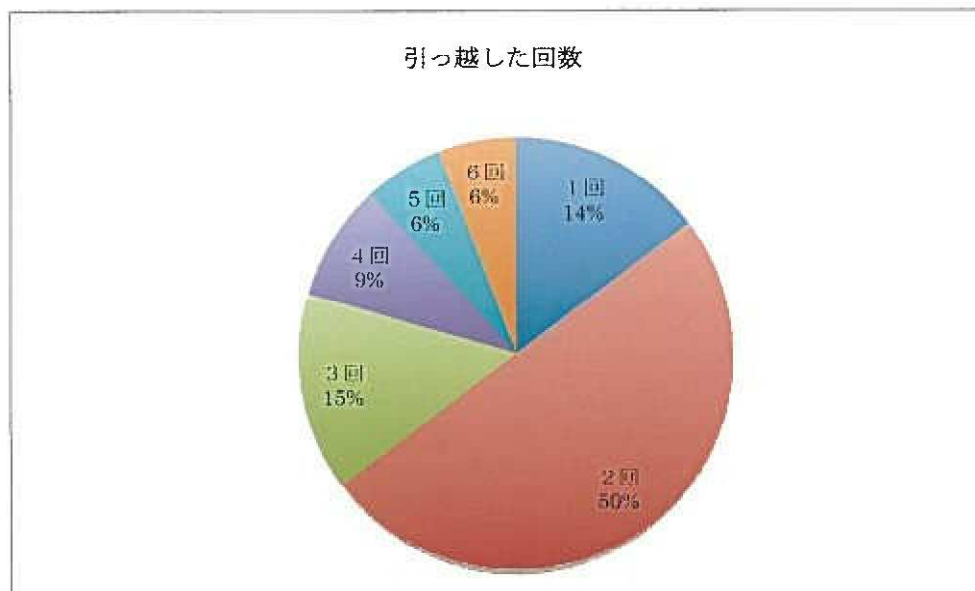
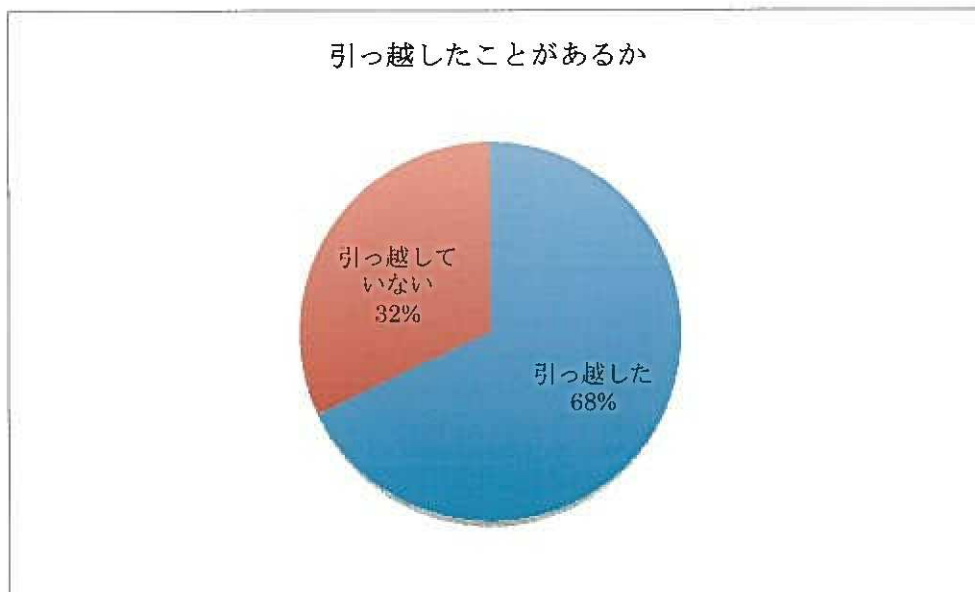
現在、児童養護施設等では発達障害の診断を受ける事例も多くなっており、退所後も継続して医療機関にかかっていることも多いようです。



(7) 引越しの有無と引越しの回数について

施設を退所してからの引越しの経験について聞いたところ、68%の人が「引っ越した」と回答しました。

また引越しの回数の内訳を見てみると、2回の人々が50%と大半を占めていました。今回の調査では、未成年者は家族と暮らしている率も高く、引越しの回数が少ない傾向にありますが、それ以外の人々は少なくとも2年に一回は引越しをしている計算になります。

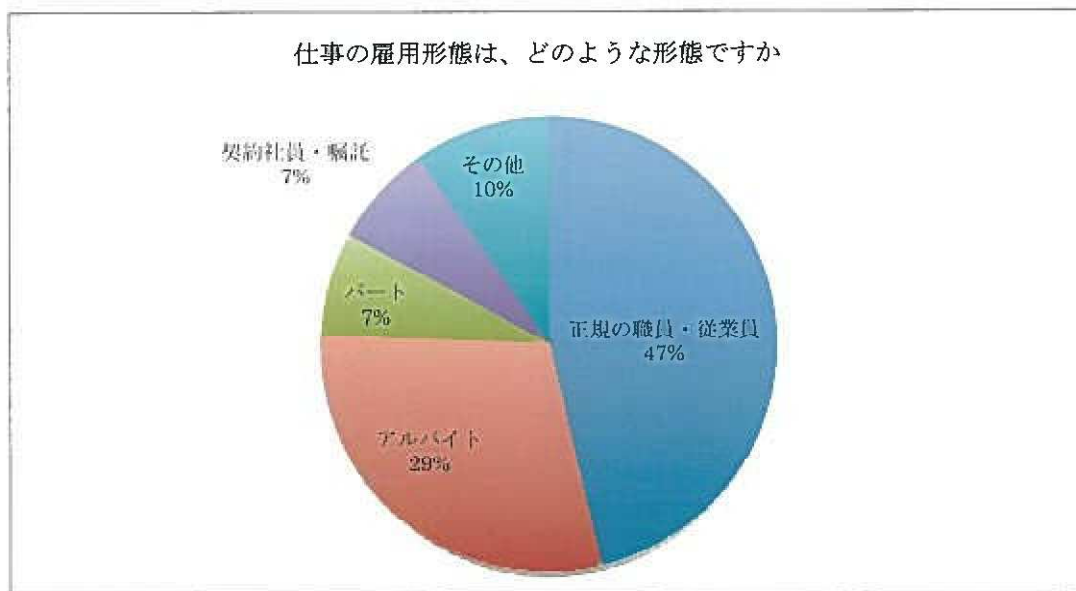
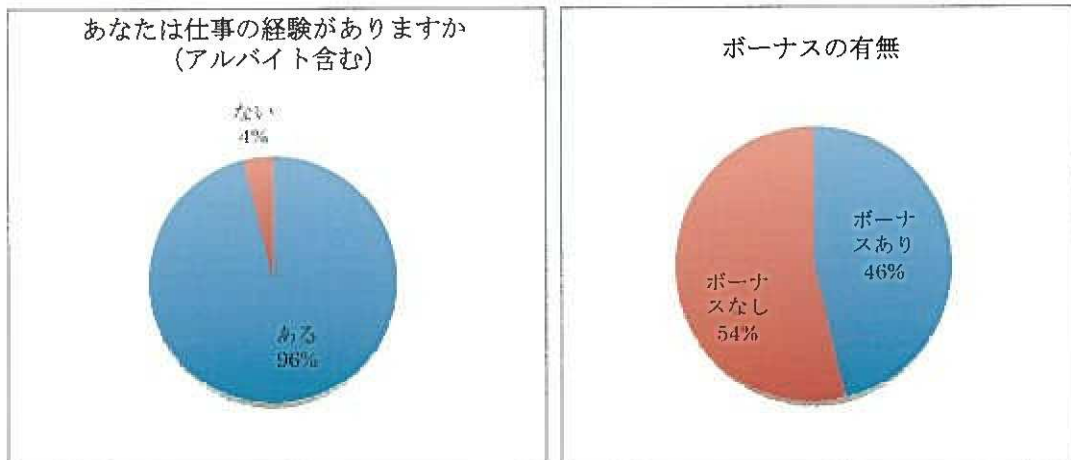


(8) 就労状況について

今現在仕事をしている人に対して雇用形態について聞いたところ、47%の人が「正規の職員・従業員」と回答しました。次に多かったのは「アルバイト」の29%でした。

平成24年就業構造基本調査の結果から岡山市の正規雇用率は63.3%となっているため、今回の調査対象児者の正規雇用率の低さが伺えます。また、「その他」には漁師や建築作業員など、個人事業主ではあるが特定の職業コミュニティに属して、継続的に収入を得る仕事をしている人がいました。

土木建築系の求人については正社員契約であっても「日給制」が多く存在するため、必ずしも生活が安定しているわけではないことが後のインタビュー調査でも明らかになっています。

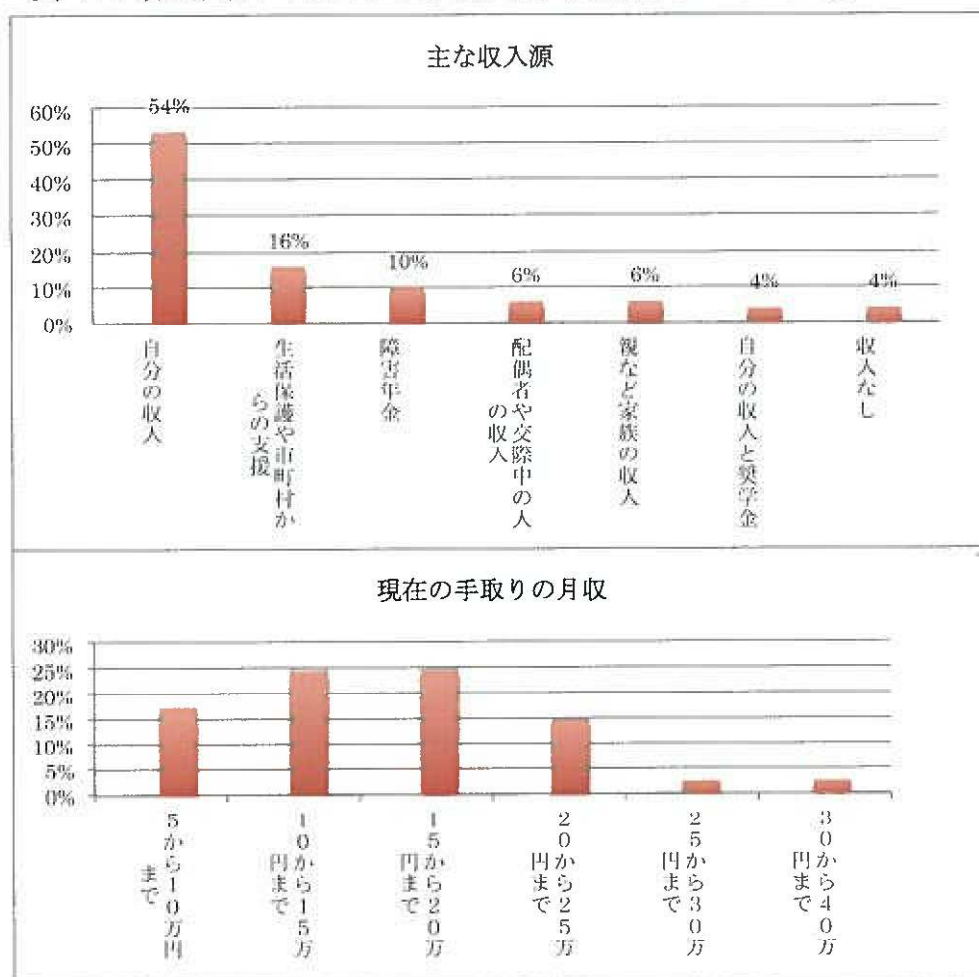


(9) 主な収入源と手取りの月収

主な収入については54%の人が自分の収入で生活していると答えました。次に多いのが「生活保護や市町村からの支援」で生活していると答えた人で、16%にもものぼります。平成23年の「生活保護の世帯数・人数、年推移」より岡山県の人口に対する生活保護実人員の割合が1.26%ということから見ると、15倍近くの高い数値になっています。

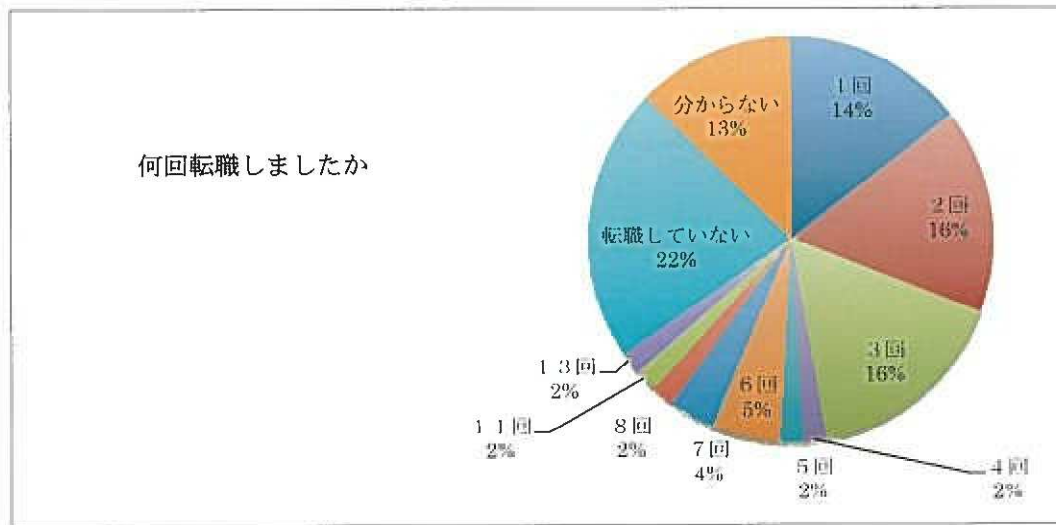
また障害年金を受給している方が10%いました。本来、障がいを持っている児童は「障害児入所施設」を利用することになりますが、障がい程度が軽度で児童養護施設等での生活が可能なことや、施設在所中に障がいがあることがわかったがそのまま生活を継続している、また、現在どこの「障害児入所施設」も定員超過の状態となっているなどの理由で、児童養護施設等にも多くの障がい児が生活し、その自立支援を児童養護施設等が担うケースが多いこともうかがえます。

一方、現在働いている人の「手取りの月収」ですが、「10から15万円」と「15から20万円」がそれぞれ25%となっています。調査対象児者の年齢構成から考えると、この額は手取りの額としては年齢相応な金額となっています。



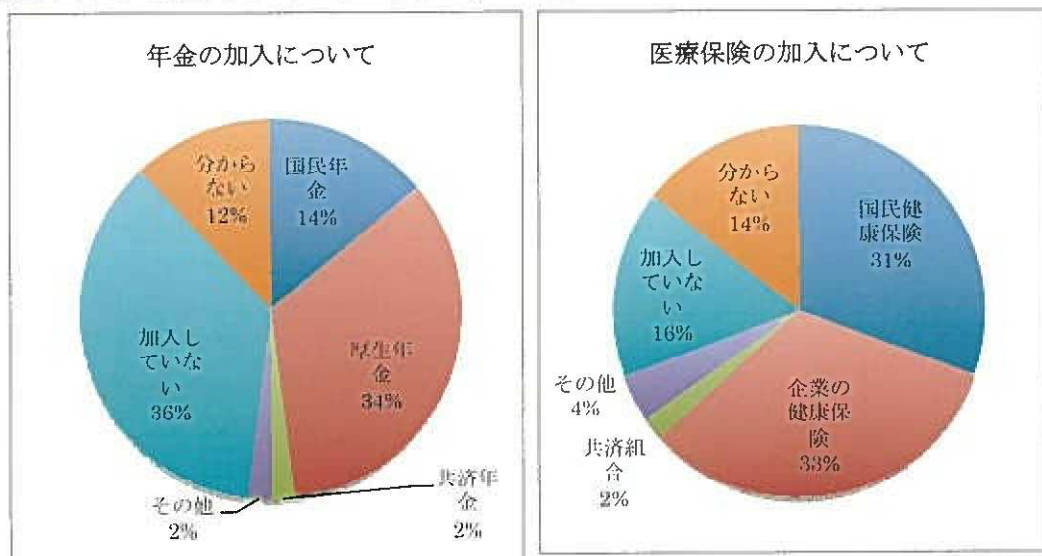
(10) 転職回数について

転職回数については、現在および過去における高校・大学在学中のアルバイト経験も含む質問となっています。しかし、それでも転職回数が5回以上と返答している割合が17%で、「分からない」を合わせると30%程度となるため、仕事の定着率の低さがうかがえます。



(11) 年金と医療保険の加入状況について

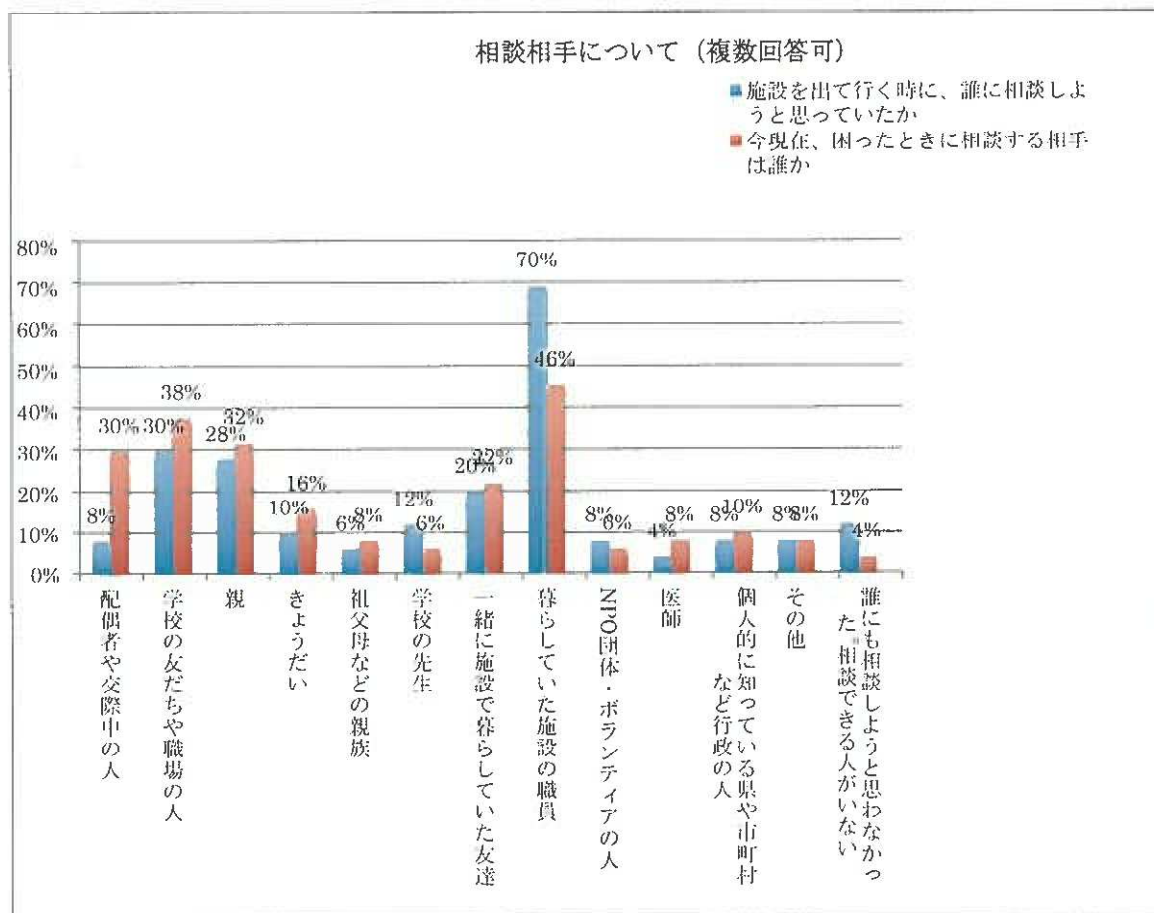
年金の加入状況について質問したところ、36%の人が「加入していない」と返答しました。このうち20%は未成年と考えられるため、おおよそ16%が年金と医療保険に加入していないということが推定されます。また「分からない」を選んだ人が年金で12%、医療保険で14%いることから、最大30%近くの者が年金・医療保険に未加入の可能性があるとこの結果になりました。なお、回答者自身が制度自体を理解していないことが想定され、的確に質問に対して回答されているか不確かな一面もあります。



(12) 相談相手について

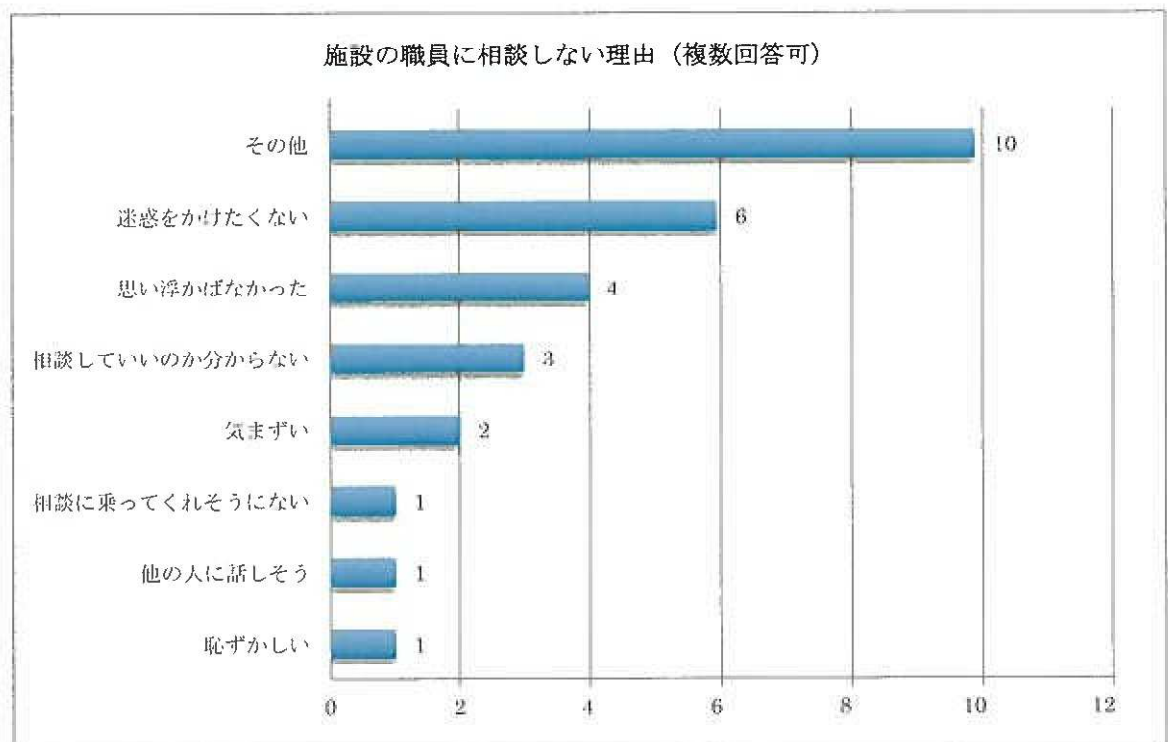
相談相手についての質問項目は「施設を出て行く時に、誰に相談しようと思ったか」という質問と、「今現在、困ったときに相談する相手は誰ですか」という2種類の質問での比較をしました。その結果、施設を退所した後も46%の人が「暮らしていた施設の職員」に相談していることがわかります。また退所後に大きく増えた相談相手に「配偶者や交際中の人」があり、30%を占めていました。

今回の調査で「相談できる人がいない」と答えた人は4%でした。



(13) 施設の職員に相談しない理由について

相談相手に「施設の職員」を選ばなかった人に対して、「施設の職員に相談しない理由（複数回答可）を質問したところ、「その他」と答えた人が最も多くなりました。そう回答した人の多くが「仲の良かった先生がいなくなった」など、担当の職員の退職を理由に挙げていました。また「迷惑をかけたくない」という回答も多く、施設生活に対してネガティブな印象から相談しないのではなく、施設に対して気を遣っている一面がうかがえました。



(14) 教えてもらったこと、もっと教えて欲しかったことについて

施設にいた時に「教えてもらったこと」と「もっと教えて欲しかったこと」を3段階評価にて質問しました。その結果を標準化し、まとめたのが次のページの表です。これらの内容を以下の4項目に分類しました。

① 施設内での退所前の自立教育が正しく伝わっているもの

この項目は施設で十分に教えてもらったという返答が多く、施設を出ても生活上で特に困ることはなく、退所前に特別教えてもらう必要がないと返答があった項目です。「ゴミの分類」「掃除のしかた」「洗濯のしかた」「薬の使い方について」「病院のかかりかた」「健康管理について」「性について」「服の選び方」「防犯の方法について」の9項目が分類されます。これらは生活上必要な事項として施設職員の意識も強く、力を入れて教育されている項目だと思われます。

② 施設での教育が不十分で、退所後の生活で困った感の強いもの

この項目は施設で教えてもらったという返答が少なく、施設退所後に困った経験等から、退所前にもっと教えておいて欲しかったとの返答があった項目です。「年金や健康保険などの制度について」「連帯保証人について」の2項目が分類されます。この項目については、今後退所前に意図的に教育することにより改善が見込める項目となっています。

③ 退所前教育は行われているが、退所後もサポートが必要なもの

この項目は施設で退所前に教えてもらったという返答が多いが、施設を出て実際の生活を送る上で、もっと退所前に教えておいて欲しかったとの返答があった項目です。「料理のしかた」「お金の管理」「生活で必ず必要なお金について」「社会人としてのルール・マナー」の4項目が分類されます。

これらの項目は実際に社会に出て困難に直面し、初めて解決の手段が必要となります。困難に直面化した時点で、アフターケアによって短期的かつ課題中心的に介入があれば解決できる事項だと思われます。

④ 教育は行われておらず、多くの退所生が困っていないもの

残りの項目は施設で教えてもらっていないが、多くの退所生は現時点で必要だとは感じておらず、しかしながら一部の退所生が困難に直面化している項目です。それぞれのライフステージに応じて、周りの人に相談して解決しているという返答が多く返ってきた項目です。

施設で教わったこと、もっと教わりたかった事について

※「もっと教えて欲しかった」の平均値が高い項目から整理

質問番号		問13	問21	問25	問14	問8	問7	問20	問4	問5	問12	問15	問26	問16	問19
質問文		年金や健康保険などの制度について	社会人としてのルール・マナー	運転保証人について	お金の管理	結婚や葬式などのルール・マナー	家の借りかた	子育てについて	料理のしかた	住民票や市役所の使い方	銀行の手続き	生活で必ず必要なお金について	悪徳商法について	将来設計について	結婚について
赤字 しっかり教えてもらった 黒字 教えてもらっていない	平均値	0.567	(0.685)	(0.033)	(0.555)	0.925	0.788	0.184	(0.633)	0.216	0.173	(0.201)	0.369	0.067	0.324
	標準偏差	0.835	0.917	0.996	0.856	1.057	1.099	0.699	1.008	1.036	0.827	0.899	0.793	0.787	0.581
	中央値	0.584	(0.650)	0.268	(0.491)	0.753	0.743	0.419	(0.441)	0.442	0.434	(0.214)	0.553	0.023	0.509
赤字 もっと教えて欲しかった 黒字 必要ない	平均値	(0.571)	(0.566)	(0.519)	(0.443)	(0.438)	(0.347)	(0.307)	(0.276)	(0.198)	(0.194)	(0.115)	(0.082)	(0.073)	(0.004)
	標準偏差	1.067	1.058	1.344	1.415	1.033	1.198	0.919	1.728	0.999	1.152	0.977	0.809	0.940	0.832
	中央値	(0.332)	(0.555)	(0.038)	0.192	0.192	0.192	0.347	0.192	0.347	0.192	0.278	0.278	0.192	0.278
項目		(2)	(3)	(2)	(3)	(4)	(4)	(4)	(3)	(4)	(4)	(3)	(4)	(4)	(4)

質問番号		問19	問22	問27	問18	問10	問11	問1	問24	問17	問9	問23	問6	問2	問3
質問文		結婚について	仕事を選ぶ方法	借金問題について	妊娠や出産について	病院のかりかた	健康管理について	ゴミの分類	防犯の方法について	性について	薬の使いかたについて	服の選びかた	バス・電車・タクシーの乗り方	掃除のしかた	洗濯のしかた
赤字 しっかり教えてもらった 黒字 教えてもらっていない	平均値	0.324	0.098	0.332	0.094	(0.074)	(0.484)	(0.317)	(0.037)	(0.027)	(0.070)	0.145	0.117	(0.745)	(0.498)
	標準偏差	0.581	0.777	0.887	0.760	0.843	0.983	0.906	0.853	0.909	0.767	0.976	0.984	0.957	1.040
	中央値	0.509	0.240	0.509	0.268	(0.192)	(0.340)	(0.227)	(0.151)	(0.151)	(0.176)	(0.092)	0.240	(0.800)	(0.365)
赤字 もっと教えて欲しかった 黒字 必要ない	平均値	(0.004)	(0.002)	0.009	0.171	0.203	0.232	0.307	0.340	0.390	0.430	0.457	0.491	0.492	0.614
	標準偏差	0.832	0.761	0.832	0.768	0.680	0.587	0.826	0.444	0.563	0.504	0.470	0.598	0.595	0.445
	中央値	0.325	0.278	0.278	0.347	0.347	0.347	0.383	0.360	0.383	0.395	0.395	0.443	0.409	0.525
項目		(4)	(4)	(4)	(4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(4)	(1)	(1)

(15) 自由記述

アンケートには自由記述欄も設けられており、回答者によって様々な意見が寄せられていました。自由記述欄に「わからない」「特にない」以外の有意な記載があった人は23名でした。アンケートに回答をして返送してくれる人は、まだ社会とのつながりがある程度維持している人と推定されるため、それが全対象者の意見を代表するものではありませんが、施設で暮らしていた人の声として示唆に富んでいます。

【「施設」に対する思い・求め】

自分たちが生活してきた施設に対しては、様々な思いが記されていました。大まかにまとめると、「施設に対する思い」「施設への求め」に分類することができます。

① 施設に対する思い

施設に対するポジティブな思いを記したものは多く見られました。入所生活中に、施設職員と良い関係が築けており、それが退所後の生活の支えにもなっていると感じられます。

内容としては、「今は退所してから十分にサポートを受けている」「退所後に施設に帰った際に、おかえりと言ってもらえることが嬉しい」「退所しても先生方は優しく相談にのってくれたりしている。退所してから感謝という言葉がわかると思う」「施設の方々には感謝の気持ちと、申し訳ない気持ちでいっぱい」という記述がみられました。

また、施設内では「絶対に誰かに守られている」「先生に助けられながら生活していた」と振り返っている記述がみられました。

② 施設への要求

実際に施設から出て生活をしてみて、「施設にこういうことをして欲しい」と感じている記述がみられました。それらは概ね、退所後の生活も把握してほしい、相談支援をしてほしいと求めるものでした。

内容としては、「退所後も家庭訪問や電話での様子伺いをしてほしい」「一年に1度は集まって情報交換をする場所があってもよい」「金銭管理の指導、家事全般の指導、退所前の教育が必要」「困ったときにどこに相談すればいいのか」「担当の先生と現状報告できる時があればよい」「きちんと一般常識や学力を身につけられる環境があればよかった」「免許を取らせてほしい」「施設は家族の問題など、もうちょっと話を聞いて欲しい」「どうせ相談できない。忙しそう」という記述がみられました。

また、施設生活そのものについても要望が記されています。「(施設の職員との間に良い思い出がなく)職員に対して、徹底した適性検査を行って欲しい」「職員が子どもの立場に立って、同等の目線で話した方がよい」という記述がみられました。

【退所後の生活について】

施設を退所した後の生活については、「家族」「金銭」について記されたものがありました。

① 「家族」について

「家族」について書かれているものとしては、「入所中に定期的に帰宅していたので、退所後も地元との関係ができており、帰りやすかった」「父親がいたため不安は少なかった」「本来頼れるはずの親に連帯保証人が頼めないことが一番困った」という記述がみられました。

② 「金銭面」について

次に金銭面に関するものですが、施設退所者は経済的基盤が弱いまま自立を求められるため、切実なことで考えられます。

内容としては、「資金が少ないので生活していけるかと新生活が軌道に乗るまではドキドキだったので、退所後半年から1年くらいの間、何かしらの援助があるとありがたい」「施設を退所した人向けの連帯保証機関の充実をしてほしい。それがあれば、金銭面で将来が制限されたり、余計な不安に襲われることもない」「金銭面での不安が強かった」という記述がみられました。

【これから退所していく人へのアドバイス】

自由記述のなかには、これから退所していく人へのアドバイスや励ましととれるものもありました。これらのアドバイスや励ましは、自身の体験を踏まえたものであり、退所後に一生懸命生活しているがゆえのものです。

内容としては、「退所しても相談しやすいように、日頃から施設職員と仲良くしておいたほうがよい」「個人の能力による違いは出てくるが、結局はすべて自分次第」「自分自身がしっかり自分や相手を守っていけるようになってほしい。出てからは、自分で決めていかないといけないのだから」「家を借りるとき、連帯保証人を親などに相談して実行すること」という記述がみられました。

また、仕事について、「最初はわからないことばかりだけど、めげずにしっかりコツコツと覚えていけば、ちゃんと認められるから頑張れる」という記述もみられ、これから社会に出て就労をしていく人へのエールとも捉えられる内容でした。

1. 調査実施概要

■ 調査期間

平成26年3月1日～平成26年3月12日

■ 調査対象とその状況

調査対象	アンケート調査をKJ法により分類し、4名に実施
調査対象者の状況	①正社員として就職しており、親の支援が無い方 ②正社員として就職しており、親の支援がある方 ③アルバイトで働いており、親の支援が無い方 ④生活保護の方

■ 調査方法

1対1での面接を行い、構造化インタビューを行う。

インタビューの際は8つの分野の写真や事例を見せ、出てきた項目に関してはラダーリング法を用い、評価構造を明らかにしました。

1. 調査結果

調査結果については①日常生活について②仕事について③契約・防犯についての3種類に分類することができました。また、結果については中央に事柄を配置し、左手側にその理由、右手側に具体的な内容を記載しています。

① 日常生活について

(1) ゴミの出し方

ゴミの出し方については施設内の生活では分別をしたことがなく、退所後に実際にゴミ出しをした際に注意を受けたという話がありました。また古紙や粗大ごみについては通常のゴミとは出し方が違うため、戸惑うことも多かったそうです。調査対象者は大家さんにゴミの出し方を聞き、そこからルールを守るようになったそうです。

(2) お金の管理

お金の管理については全ての人が困ったこととして挙げた項目でした。具体的には「外食ばかりしてしまった」「手元にあるとつい使ってしまう」という内容から「仕事道具を買うのにどうしてもお金がかかる」という意見もありました。理由を聞いたところ、「支払うお金が残らない」との意見があり、金銭管理の支援の必要性が伺えます。

(3) 病院のかかり方

病院のかかり方については、具体的に「健康保険の仕組みが分からない」「窓口での手続きの仕方が分からない」という回答がありました。特に健康保険や年金の制度を今回のインタビュー対象者は理解しておらず、中には「健康保険証を持っていないから通院しない」という理由を挙げる人もいました。その場合、怪我をした場合はどう対応するのか訊いたところ、「会社が加入している保険（労災保険含）で対応してもらえるから」という理由が挙げられました。併せて、「病院に支払うお金がない」という理由も聞かれました。

② 仕事について

(1) 仕事の選び方と求人票の見方について

仕事の選び方について質問したところ、そもそも求人票を見て探すような機会が少ないとの意見がありました。その背景として高校を中退しており、ハローワークの求人票では中卒の求人が見当たらないから、実際には友達に仕事を紹介してもらっているとのことでした。また、仕事の選び方として「待遇のいい仕事」を探すため、「夜の仕事」や「土木・建築関係の仕事」をしているとの話

がありました。

(2) 病気の時の対応

病気になっても仕事が休めないとの意見が2名の方からありました。その背景として「日給月給制なので働かないと給与が下がる」という理由や、「現場仕事なので、休むと仕事に呼ばれなくなる可能性がある」という理由があり、雇用形態の不安定さが垣間見えます。

(3) 仕事のルール・マナーについて

仕事のルール・マナーについては、退所前に「仕事のルール等を教わったことがない」という話がありました。その背景には「高校を中退した時点で施設を出たから」という理由を挙げる人が1名いました。

③ 契約・防犯について

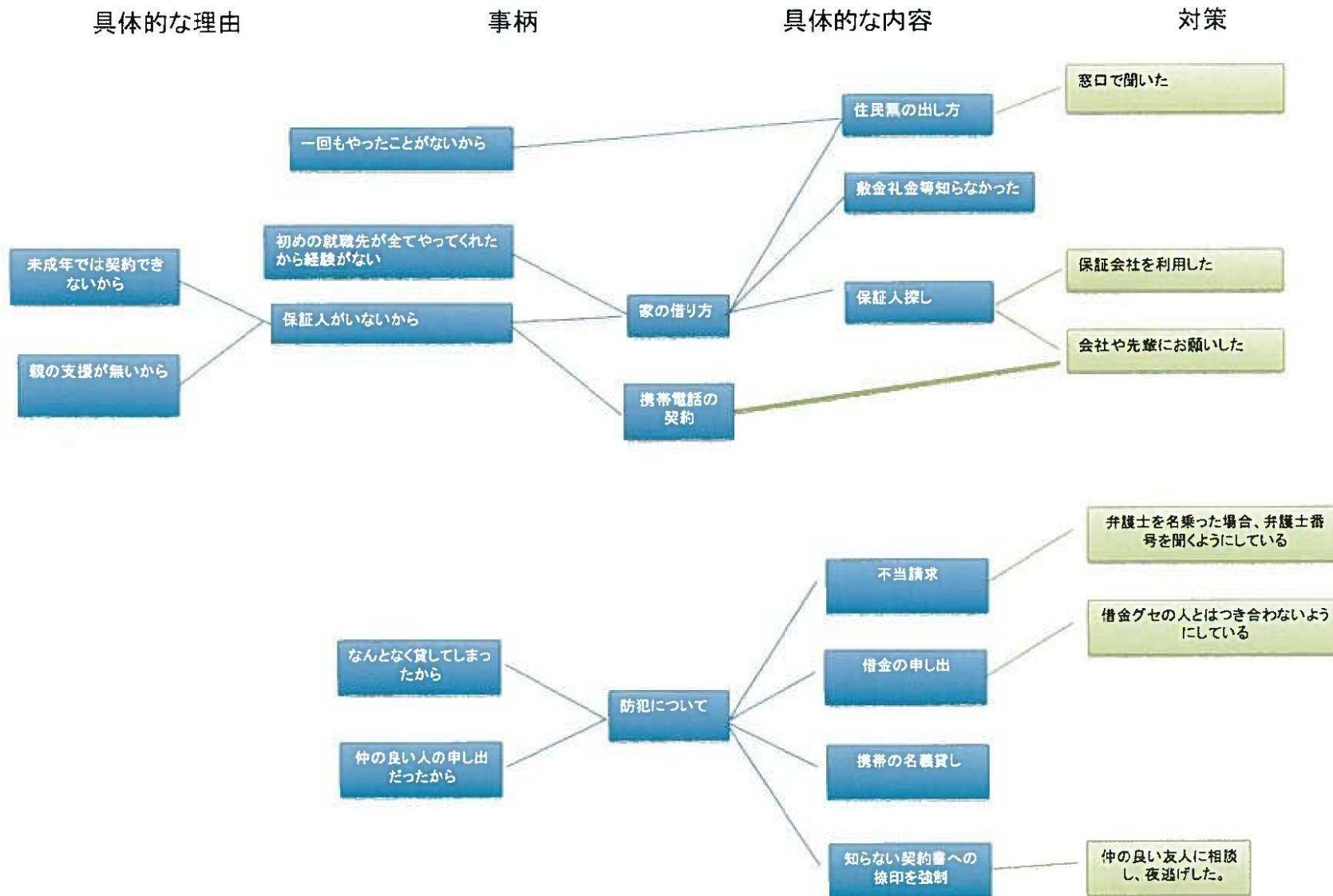
(1) 家の借り方などの契約について

家の借り方や携帯電話の契約などは実際に困ったこととして3名の方が挙げていました。その最も大きな理由が「保証人がいない」という理由で、働いている職場の人や友人間で保証人になるケースが多い様子です。特に携帯電話は未成年のみでの契約が不可能なため、仕事先の上司に契約してもらい、持たせてもらったとの話がありました。

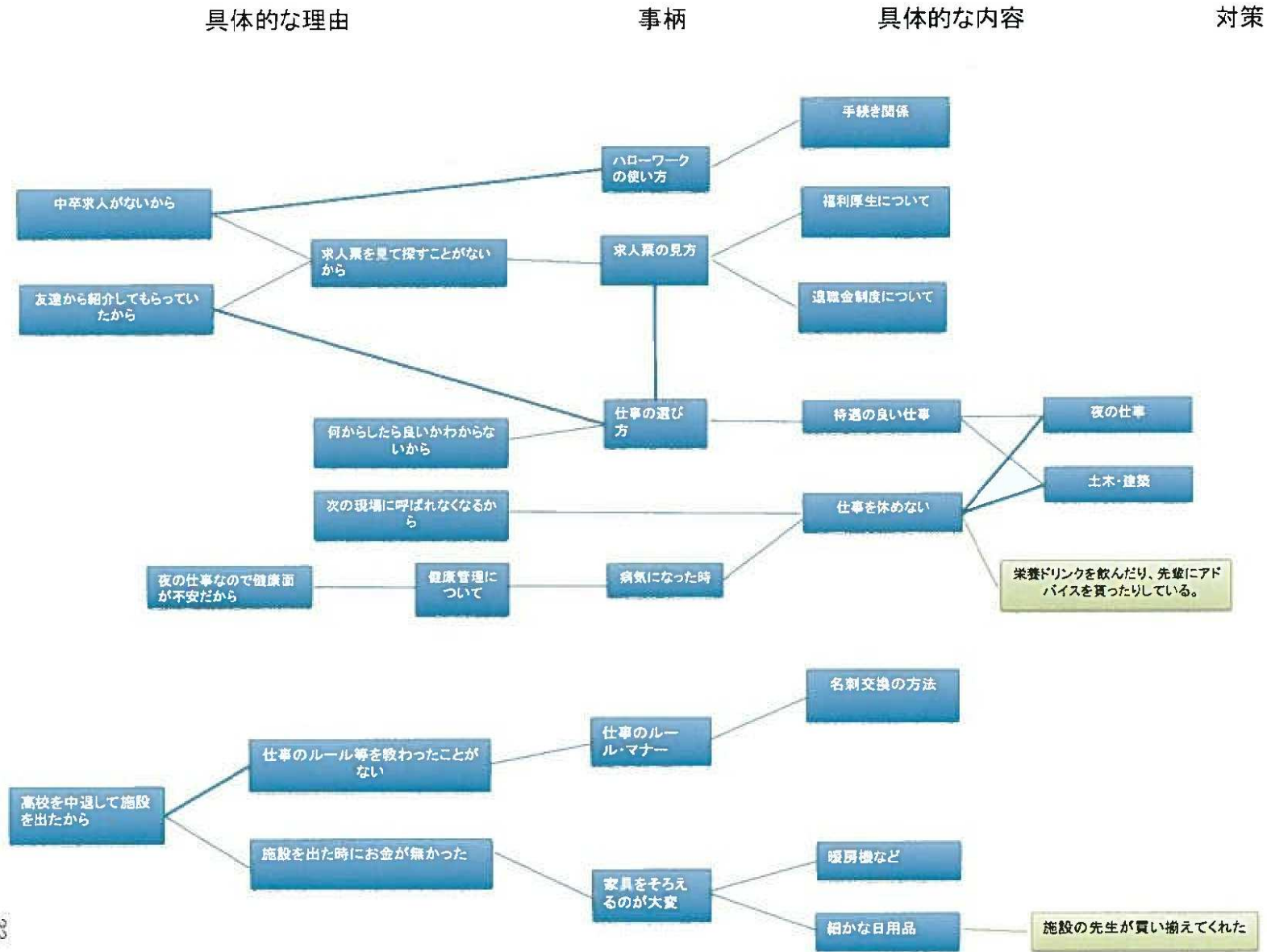
(2) 防犯について

防犯については先輩や職場で詐欺等の話を聞き、気をつけているということでした。そのためトラブルに巻き込まれそうになったとき様々な対策を講じていました。1名、実際に巻き込まれたと回答する人がいましたが、その時は「仲の良い友人からの申し出」で「なんとなく貸してしまった」という背景を挙げていました。

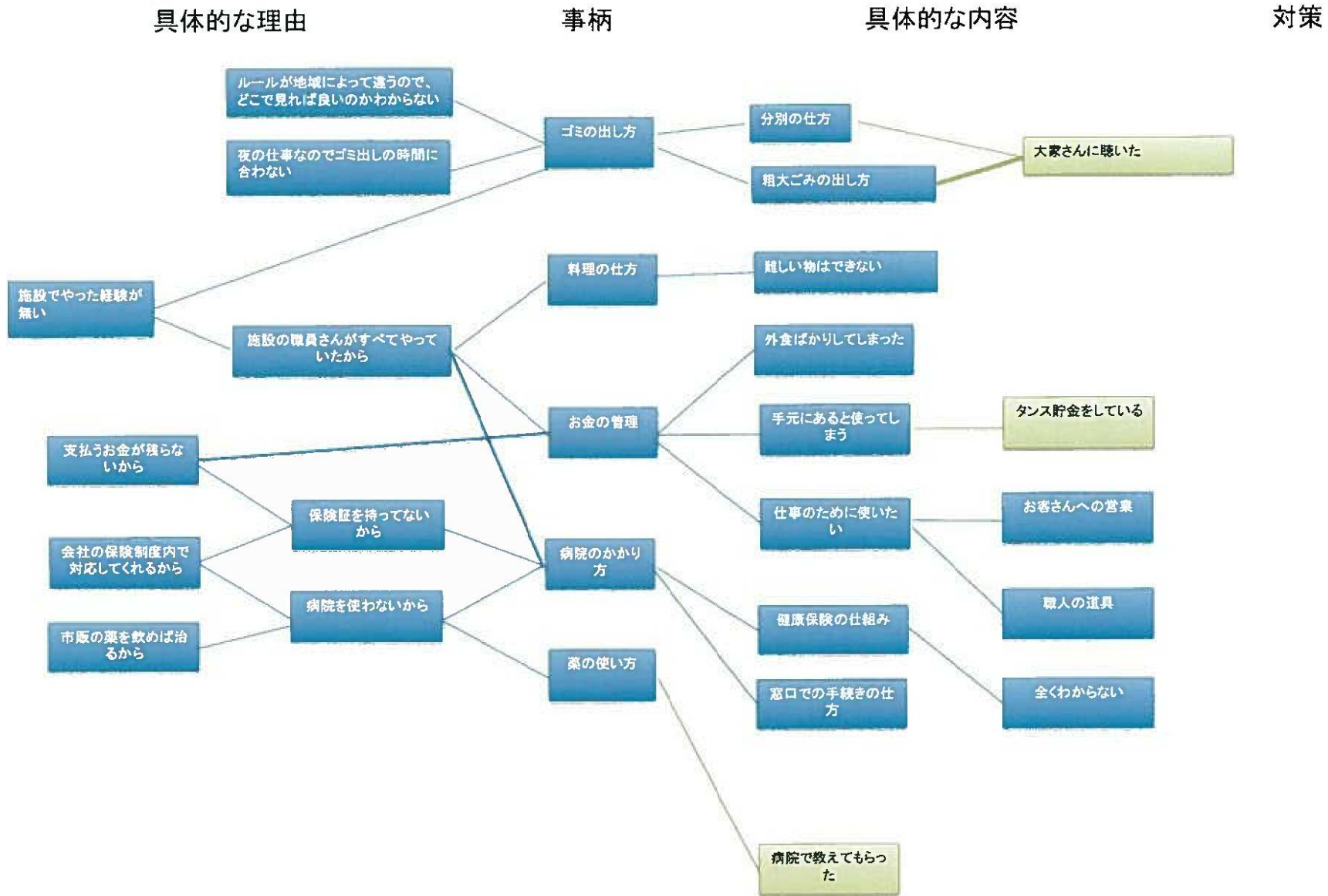
③契約・防犯について インタビュー結果



②仕事について インタビュー結果



①日常生活について インタビュー結果



1. 調査の所感

本調査の中で「退所後の生活上で困っていない理由」が多かったのが、「困ったときは聞けば誰でも教えてくれる」というものでした。そのため、「困ったときに適切なアドバイスをしてくれる人が身近にいるか」が生活の安定に大きく影響していると思われます。

またインタビュー調査において「グループホームの経験が役に立った」との意見も出ました。小規模ユニットケアでは、職員が家事をする姿を目の前でみることができることや、自然とその家事の手伝いをしていたので、料理なども簡単なものであればできるようになったし、必要最低限の家事はできるようになったとの話がありました。

2. 施設で必要とされている教育について

今回の調査結果により、日常生活面についての退所前教育は成果として現れており、退所後に少し分からないことがあったとしても、周りの人に聞くことによって解決できていることが分かりました。その反面「年金や健康保険などの制度について」など、複雑な公的制度との付き合い方が大きな課題として挙げられます。これら制度については退所生たちも理解度が低いのと同時に、「現時点で加入していなくても困らない」という意識がインタビュー調査でも明らかとなっています。普段の生活上では実感がありませんが、将来の生活の安定や事故が起きた際の安心にも繋がる事項なので、制度を正しく理解して利用していく必要があります。

また、実際に育った施設は退所生にとってはとても大きな繋がりです。退所後も困ったときはいつでも相談できる場所と認識してもらうことで、その他のより専門的な制度を利用するための窓口ともなります。また、児童福祉施設と協働関係にあって、その延長上にある相談窓口の整備も必要と感じます。

3. 施設だけでは解決が難しい、今後地域生活上で必要とされている支援

①連帯保証人の問題について

携帯電話や住居の賃貸契約で必ず必要となるのは連帯保証人です。家族を頼れない施設退所生の場合は保証人を探すのは難しく、また20歳を過ぎても不安定な職業に就いている場合は、住居が借りにくい現状があります。この問題に対しては平成19年から「身元保証人確保対策事業」という制度があり、保証人に対する負担を保証する制度がありますが、最長3年間という期間が定められています。これらに対しては、さらに自立援

助ホームなどの拡充で短期的な生活場所の保証をすることと同時に、既存の生活困窮者支援制度などとも協力した住居支援体制を構築する必要があると思われます。

②中卒・高校中退の子ども達のサポートについて

児童養護施設等は中学卒業や高校を中退して働く場合、原則として施設を退所することになります。しかし、社会経験が乏しく、仕事上のルールやマナーも教わっていない状態での就職となるため長続きがせず、仕事を探そうと思っても求人自体が少ないという問題が明らかとなりました。このような方に対しては、ハローワークで個別に仕事の相談や紹介を行っていますが、ハローワークの使い方が分からないため、利用できていない人も多い状態です。また未成年の人は保証人になってくれる人がいない場合もあり、退所後の就労支援を専門に提供する機関が必要です。

③就労支援の問題について

今回の調査で「生活保護や市町村からの支援」で生活している人が16%にのぼり、一方で「正規の職員・従業員」であると回答した人が47%足らずと、就労面の課題が浮き彫りになりました。この背景としては、施設退所時に生活と仕事を同時に始めなければならないが、生活の保証となる家族等による支援が十分ではないため、仕事を辞めた時にすぐ働くことのできるパートやアルバイトに就きやすい、生活を維持するために生活保護に至ってしまう背景が考えられます。そのため、安易に仕事を辞めないように就業上のアドバイスをしたり、仕事を辞めても失業手当等の諸制度を使いながら不利にならない状況下で仕事を探そうとすることができるようにアドバイスを得られるような、退所性の事情に配慮した就労支援機関が必要と思われます。

しせつたいしょじどうしえん じつたいちようさ
施設退所児童支援のための実態調査

この調査は、児童養護施設等にいたみなさんの現状や困ったことを教えてもらい、今後の支援に役立てるものです。

それぞれの質問に対して当てはまる番号を選び、○を付けてください。

問1. 調査に回答するのはどなたですか。

- ① 本人
- ② 本人以外

問2. あなたが最後にいた施設の種類の種類を教えてください。

- ① 児童養護施設 (南野育成園、善隣館、若松園
新天地育児院、おかやま聖園子供の家)
- ② 情緒障害児短期治療施設 (津島児童学院)
- ③ 児童自立支援施設 (成徳学校)
- ④ 自立援助ホーム (おおもと荘、茶屋町荘、ソレイユ)
- ⑤ ファミリーホーム
- ⑥ わからない

問3. 全部で何年施設にいましたか。

- ① 6ヶ月まで
- ② 6ヶ月から1年まで
- ③ 1年から3年まで
- ④ 3年から5年まで
- ⑤ 5年から10年まで
- ⑥ 10年以上

問4. グループホーム(小規模ユニットケア)の経験はありますか。

- ① ある
- ② ない
- ③ わからない

I 現在の生活について

問5. 現在の住まいについて教えてください。

(1) 現在の住まい (当てはまるもの1つに○)

- | | |
|------------------|-------------|
| ① 自分で買った家 | ② 家族の家 |
| ③ 市営住宅や県営住宅 | ④ 民間で借りている家 |
| ⑤ 親戚の家 | ⑥ 友達の家 |
| ⑦ 会社の寮 (住込みや社員寮) | ⑧ 自立援助ホーム |
| ⑨ その他 【 | 】 |

(2) 施設を退所してから引越しは何回しましたか。(当てはまるもの1つに○)

- | | | | |
|-------------|---|-----|---------|
| ① 引っ越しした | → | 現在【 | 】カ所目である |
| ② 引っ越ししていない | | | |

問6. 一緒に住んでいる人について教えてください。

(1) 配偶者や交際中の人と同居

- | | |
|--------|---------|
| ① している | ② していない |
|--------|---------|

(2) 子どもと同居

- | | | | |
|--------|---|---|----|
| ① している | → | 【 | 】人 |
|--------|---|---|----|

(3) 自分の親と同居

- | | |
|---------|-------|
| ② していない | ③ いない |
|---------|-------|

(4) 配偶者や交際中の人との親と同居

- | | |
|--------|---------|
| ① している | ② していない |
|--------|---------|

(5) 知り合いや友達と同居

- | | |
|--------|---------|
| ① している | ② していない |
|--------|---------|

問7. 病院を利用しているか教えてください。また、よろしければ診療科を教えてください (心療内科、産婦人科など)

- | | | | |
|-----------|---|-------|---|
| ① 利用している | → | 診療科 【 | 】 |
| ② 利用していない | | | |

問8. ^{おも} ^{しゅうにゆうげん} 主な収入源 ^{おし} について教えてください。

- | | |
|--|---|
| ① ^{じぶん} ^{しゅうにゆう} 自分の収入 | ② ^{はいぐうしゃ} ^{こうさいちゆう} ^{ひと} ^{しゅうにゆう} 配偶者や交際中の人の収入 |
| ③ ^{おや} ^{かぞく} ^{しゅうにゆう} 親など家族の収入 | ④ ^{しおく} 仕送り |
| ⑤ ^{せいかつほご} ^{しちょうそん} ^{しえん} 生活保護や市町村からの支援 | ⑥ ^{しょうがいねんきん} 障害年金 |
| ⑦ ^{しょうがくきん} 奨学金 | ⑧ ^{しゅうにゆう} 収入はない |
| ⑨ ^た その他 【 | 】 |

問9. ^{げんざい} ^{てど} ^{げっしゅう} ^{おし} 現在の取りの月収を教えてください。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ① ^{まんえん} 5万円まで | ② 5～10 ^{まんえん} 万円まで |
| ③ ^{まんえん} 10～15万円まで | ④ ^{まんえん} 15～20万円まで |
| ⑤ ^{まんえん} 20～25万円まで | ⑥ ^{まんえん} 25～30万円まで |
| ⑦ ^{まんえん} 30～40万円まで | ⑧ ^{まんえんいじょう} 40万円以上 |

問10. ボーナスはありますか。またどのくらいありますか。

- | | | | | | | | |
|------|-----|---------------------|--------|-----|---|------------------|------|
| ① あり | → 【 | ^{かげつぶんていど} | 】ヶ月分程度 | または | 【 | ^{えんていど} | 】円程度 |
| ② なし | | | | | | | |

問11. ^{げんざいかにゆう} ^{こうてきねんきん} ^{いりょうほけん} ^{おし} 現在加入している公的年金と医療保険について教えてください。

(1) ^{ねんきん} 年金について

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ① ^{こくみんねんきん} 国民年金 | ② ^{こうせいねんきん} 厚生年金 |
| ③ ^{きょうさいねんきん} 共済年金 | ④ ^た その他 【 |
| ⑤ ^{かにゆう} 加入していない | ⑥ ^た わからない |
| | 】 |

(2) ^{いりょうほけん} 医療保険について

- | | |
|---------------------------------|--|
| ① ^{こくみんけんこうほけん} 国民健康保険 | ② ^{きぎょう} ^{けんこうほけん} 企業の健康保険 |
| ③ ^{きょうさいくみあい} 共済組合 | ④ ^た その他 【 |
| ⑤ ^{かにゆう} 加入していない | ⑥ ^た わからない |
| | 】 |

問 1 2. 施設を出て行く時に、困ったり不安に思った時、誰に相談しようと思
 っていましたか（あてはまるすべてに○）

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| ① 配偶者や交際中の人 | ② 学校の友だちや職場の人 |
| ③ 親 | ④ きょうだい |
| ⑤ 祖父母などの親族 | ⑥ 学校の先生 |
| ⑦ NPO団体・ボランティアの人 | ⑧ 医師 |
| ⑨ 一緒に施設で暮らしていた友達・先輩 | |
| ⑩ 暮らしていた施設の職員（現在施設にいない人も含む） | |
| ⑪ 個人的に知っている県や市町村など行政の人（児童相談所の職員等） | |
| ⑫ その他【 | 】 |
| ⑬ 誰にも相談しようとは思わなかった | |

問 1 3. 今現在、困ったり不安に思った時、相談する相手は誰ですか（あては
 まるすべてに○）

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| ① 配偶者や交際中の人 | ② 学校の友だちや職場の人 |
| ③ 親 | ④ きょうだい |
| ⑤ 祖父母などの家族 | ⑥ 学校の先生 |
| ⑦ NPO団体・ボランティアの人 | ⑧ 医師 |
| ⑨ 一緒に施設で暮らしていた友達・先輩 | |
| ⑩ 暮らしていた施設の職員（現在施設にいない人も含む） | |
| ⑪ 個人的に知っている県や市など行政の人（児童相談所の職員など） | |
| ⑫ その他【 | 】 |
| ⑬ 相談できる人がいない | |

問 1 4. 問 1 3で「退所した施設の職員」を選ばなかった人にお聞きし
 ます。その理由は何ですか（あてはまるすべてに○）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 恥ずかしい | ② 気まずい |
| ③ 他の人に話しそう | ④ 相談していいのか分からない |
| ⑤ 相談に乗ってくれそうにない | ⑥ 相談してもバカにされそう |
| ⑦ 弱みを出すのがいや | ⑧ 迷惑をかけたくない |
| ⑨ 施設が嫌いだったから | ⑩ 思い浮かばなかった |
| ⑪ その他【 | 】 |

Ⅱ 仕事について

問15. あなたは仕事の経験がありますか（アルバイトを含む）

- ① 仕事をしたことがある
- ② 仕事をしたことがない

問16. 転職した事がある人にお聞きします。今の職場は何カ所目ですか。
（アルバイトを含む）

- ① 現在【 】カ所目である
- ② わからない

問17. 今仕事をしている人に質問です、その仕事の雇用形態はどのような形
ですか。

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| ① 正規の職員・従業員 | ② パート |
| ③ アルバイト | ④ 派遣社員 |
| ⑤ 契約社員・嘱託 | ⑥ 自営業 |
| ⑦ わからない | ⑧ その他【 】 |

Ⅲ これまでの経験について

問18. あなたが施設にいた時に、先生から「教わったこと」を教えてください。(3つの中から1つ選んでください)

	しっかり 教えてもらった	少し教えて もらった	教えてもら っていない
(1) ゴミの分類	①	②	③
(2) 掃除のしかた	①	②	③
(3) 洗濯のしかた	①	②	③
(4) 料理のしかた	①	②	③
(5) 住民票や市役所の使い方	①	②	③
(6) バス・電車・タクシーの乗り方	①	②	③
(7) 家の借りかた	①	②	③
(8) 結婚や葬式などのルール・マナー	①	②	③
(9) 薬の使いかたについて	①	②	③
(10) 病院のかかりかた	①	②	③
(11) 健康管理について	①	②	③
(12) 銀行の手続き (ATMの使いかたや口座の作りかた)	①	②	③
(13) 年金や健康保険などの制度について	①	②	③
(14) お金の管理	①	②	③
(15) 生活で必ず必要なお金について (家賃や光熱費)	①	②	③
(16) 将来設計について	①	②	③
(17) 性について	①	②	③
(18) 妊娠や出産について	①	②	③
(19) 結婚について	①	②	③
(20) 子育てについて	①	②	③
(21) 社会人としてのルール・マナー	①	②	③
(22) 仕事を選ぶ方法 (求人票の見方など)	①	②	③
(23) 服の選びかた (仕事や季節での合わせかた)	①	②	③
(24) 防犯の方法について	①	②	③
(25) 連帯保証人について	①	②	③
(26) 悪徳商法について	①	②	③
(27) 借金問題について	①	②	③

問19. 先生たちから「もっと教わりたかったこと」について教えてください。
 (3つの中から1つ選んでください)

	もっと教えて 欲しかった	少し教えて 欲しかった	必要ない
(1) ゴミの分類 <small>ぶんるい</small>	①	②	③
(2) 掃除のしかた <small>そうじ</small>	①	②	③
(3) 洗濯のしかた <small>せんたく</small>	①	②	③
(4) 料理のしかた <small>りょうり</small>	①	②	③
(5) 住民票や市役所の使い方 <small>じゅうみんひょう しやくしょ つか かた</small>	①	②	③
(6) バス・電車・タクシーの乗り方 <small>でんしゃ の かた</small>	①	②	③
(7) 家の借りかた <small>いえ か</small>	①	②	③
(8) 結婚や葬式などのルール・マナー <small>けっこん そうしき</small>	①	②	③
(9) 薬の使いかたについて <small>くすり つか</small>	①	②	③
(10) 病院のかかりかた <small>びょういん</small>	①	②	③
(11) 健康管理について <small>けんこうかんり</small>	①	②	③
(12) 銀行の手続き (ATMの使いかたや口座の作りかた) <small>ぎんこう てつづき つか こうざ つく</small>	①	②	③
(13) 年金や健康保険などの制度について <small>ねんきん けんこうほけん せいど</small>	①	②	③
(14) お金の管理 <small>かね かんり</small>	①	②	③
(15) 生活で必ず必要なお金について (家賃や光熱費) <small>せいかつ かなら ひつよう かね やちん こうねつひ</small>	①	②	③
(16) 将来設計について <small>しょうらいせつけい</small>	①	②	③
(17) 性について <small>せい</small>	①	②	③
(18) 妊娠や出産について <small>にんしん しゅつさん</small>	①	②	③
(19) 結婚について <small>けっこん</small>	①	②	③
(20) 子育てについて <small>こそだ</small>	①	②	③
(21) 社会人としてのルール・マナー <small>しゃかいじん</small>	①	②	③
(22) 仕事を選ぶ方法 (求人票の見方など) <small>しごと えるら ほうほう きゅうじんひょう みかた</small>	①	②	③
(23) 服の選びかた (仕事や季節での合わせかた) <small>ふく えるら しごと きせつ あ</small>	①	②	③
(24) 防犯の方法について <small>ぼうはん ぼうぼう</small>	①	②	③
(25) 連帯保証人について <small>れんたいほしょうにん</small>	①	②	③
(26) 悪徳商法について <small>あくとくしょうぼう</small>	①	②	③
(27) 借金問題について <small>しゃっきんもんだい</small>	①	②	③

平成25年度

岡山市市民協働推進モデル事業

施設児童退所支援のための実態調査

調査報告書

発行日：2014年3月31日

発行：特定非営利活動法人杜の家

〒703-8227

岡山県岡山市中区兼基107番地2

TEL/FAX 086-279-0068



本事業は、平成25年度岡山市市民協働推進モデル事業により、
特定非営利活動法人杜の家が実施したものです。